

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。
----------	---------------------------------------------------

2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校では生徒のことをよく理解していて、一人一人に合った生徒指導をしている」についてAとBの合計が、保護者63.1%、生徒64.3%である。(H29 同65.2% 53.7% H28 同58.0% 63.5%、H27 同64.0%、69.7%) 生徒の満足度が年々減少傾向にある。幅広い層の生徒が入学しており、多様化した生徒指導が必要である。また、不登校生徒が増加傾向にあることを踏まえ、生徒の実態把握と生徒理解の充実が急務である。 ・「学校は高校生としてのマナーや社会規範を身につけさせることや、相応しい服装、頭髪等の指導の徹底を図っている。」について、A(よくあてはまる)B(ややあてはまる)の合計が保護者89.2%である。(参考：生徒89.2% H29 同90.1%生徒79.6% H28 同89.1% 生徒84.8%) また、E(わからない)と回答した保護者が5.7%である。(H29 同 3.1% H28 同5.1%) この事項は保護者の関心の高い事項であり、学校の活動を保護者がよく理解していることがわかる。昨年度も同様の結果であったが、今後も継続してモラル・マナーの向上に向けた啓発指導が必要である。 ・「いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」について、保護者のAとBの合計は58.0%(H29 51.6% H28 73.0%)で昨年度より増加している。一方、E(わからない)が36.35%である。(Eの割合の変化 H29 38.5% H28 22.4% H27 34.8% H26 34.5%) いじめ等の問題は家庭との連携が不可欠であるため、学校は「いじめや差別を許さない」取り組みを実施し、家庭(保護者)により理解される必要がある。「いじめ」の定義が広くなったため、今後「いじめ」事案が以前より数多く上がることが考えられる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的生活習慣の定着、モラル・マナー指導、身だしなみ指導の徹底 ◇教育相談活動の充実による生徒理解の促進 ◇自己肯定感・自己有用感の育成のための生徒会及びHR活動の充実	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導部(生徒指導・教育相談係・生徒会係)を中心とし、各学年団(正副担任)、各教科会、外部有識者(スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー)との連携強化	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 朝の校門指導、モラルマナーアップ週間の設定、全職員による指導 (2) 教育面談週間の設定、職員研修の充実、各係会(生徒指導・教育相談・学年等)の定期的開催、スクールカウンセラーとの連携 (3) 生徒による自主的な生徒会及びLHR活動	(1) 学校生活における生徒の姿、問題行動の発生状況、地域、保護者からの意見・評価 (2) 教育面談の実施状況、職員間の課題の情報共有の状況、職員の生徒理解に係る専門的知識の向上状況 (3) 学校祭を中心とした生徒会活動や学校独自のLHR活動における生徒の姿と自己評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の校門指導を毎日実施。モラルマナーアップ週間を4,6,10,12,2月に実施(全職員による指導、6,10月はPTA役員も参加) ・年度当初、生徒・保護者への悩みアンケート。 ・教育面談を4,10月に実施。生徒理解(心理テストの分析)に係る職員研修を学年別で実施。各学年で支援を必要とする生徒についての理解を深めた。支援の必要な生徒について随時、教科担当国会議を開催。 ・6月から始まる城陵祭活動及び年2回(10月・1月)実施する生徒が運営するLHR 	①職員が連携し生徒の指導にあたり生徒の姿において改善が見られたか。 ②職員が、必要な情報を共有し、深い生徒理解に基づいた適切な支援・指導ができたか。 ③生徒の自主的かつ活発に活動することを支援できたか。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D
○生徒は身だしなみやモラル・マナーを意識し行動することができている。問題		

11 成果・課題	<p>行動の発生件数は2件（対象生徒2名）であった。学校全体では落ち着いた学習環境を維持できている。（参考：H29 4件 H28 2件 H27 1件 H26 1件）</p> <p>○定例の会議（学年会、教育相談部会）や、教科担当者会議等において情報共有し、スクールカウンセラー・ソーシャルワーカーとも連携し対応するように努めた。</p> <p>▲不登校および不登校が心配される生徒を早期に把握し適切に対応することを心がけたが、前期中間考査前後で学校生活に消極的な生徒が現れ、不登校につながる事例があった。現状を踏まえ、授業改善、個別支援、教育相談の充実、クラス経営にあつては、悩みを率直に話せる友人関係の構築等に取り組む必要がある。</p> <p>▲今年度は昨年より欠席数が増加傾向にある。欠席の理由等を分析し、対応する必要がある。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>○研修会を通じて教職員の専門性、指導力を向上させる一方、各分掌が連携し生徒が学校生活に一層積極的に取り組む環境を整え、人間的な成長を促す指導をめざす。</p> <p>○積極的な教育相談体制の構築、不登校および不登校が心配される生徒に対する個別支援、環境整備に努める。（生活習慣の崩れや学業の躓き等の早期発見・支援等）</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成 31 年 1 月 29 日

- ・ボランティア活動について、アンケート結果から大きくポイントを上げています。地域への取組は今後ますます重要になってくると思います。
- ・不登校傾向や休退学者に対して、分析や対策が必要と思われます。
- ・ハイリスクの生徒に対しては、個別の支援計画などで、高校生になるまでの生育歴や経緯など、ニューソースを活用し対応してほしい。医療連携も重要なので、推進してほしい。